

学位論文審査の要旨

学位申請者	松浦 希実 ライフサイエンス専攻 2017年度生		論文題目	日本人成人における睡眠の質ならびに労働的背景の違いと食事の適切性の関連の検討
審査委員	主 査:	飯田 薫子 教授	インターネット公表	学位論文の全文公表の可否 : 否
	副 査:	赤松 利恵 教授		「否」の場合の理由
	副 査:	香西 みどり 教授		<input type="checkbox"/> ア. 当該論文に立体形状による表現を含む
	審査委員:	須藤 紀子 准教授		<input type="checkbox"/> イ. 著作権や個人情報に係る制約がある
	審査委員:	市 育代 講師		<input type="checkbox"/> ウ. 出版刊行されている、もしくは予定されている
学位名称	博士 (生活科学) (Ph.D. in Nutritional Epidemiology)			<input checked="" type="checkbox"/> エ. 学術ジャーナルへ掲載されている、もしくは予定されている
				<input type="checkbox"/> オ. 特許の申請がある、もしくは予定されている
				※本学学位規則に基づく学位論文全文のインターネット公表について

学位論文審査・内容の要旨

世界的な健康課題の1つである非感染性疾患(NCDs)は生活習慣病とも呼ばれ、そのリスク要因として不適切な「食事」、「睡眠」、「過剰労働」など様々な要因があげられる。しかしながら、これらの因子が相互に与える影響については未だ十分な検討がなされていない。そこで本博士論文研究では、「不眠」、「長時間労働」に着目し、これらの因子と栄養素摂取との関連について横断的に検討を行った。

聖ルカ・ライフサイエンス研究所にて行われた第二次健康日記研究のデータベースを二次利用し、研究1.では不眠症症状の重症度と栄養素摂取の適切性の関連性の検討を、研究2.では長時間労働と栄養素摂取の適切性の関連性の検討を行った。その結果、研究1.では、男性において、アテネ不眠症スケールを用いた不眠症重症度評価において中等度～重度の不眠症を示した群では、ビタミンCと食物繊維の不適切な摂取者の割合が多いこと、一方で、女性ではほとんどの栄養素で関連が見られないこと、などを明らかとした。さらに不適切な摂取をしている栄養素の総数を不眠症の重症度別に群間で比較したところ、男性でのみ、不適切な栄養素数と不眠症症状に関連が見られることが明らかとなった。また研究2.では、男性を対象として長時間労働についての検討を行い、その結果、労働時間と栄養素摂取の適切性に有意な関連はなく、労働時間による食事への影響はそれほど大きくはないことを明らかとした。しかしながら、栄養素摂取は職業間でも異なることが報告されており、長時間労働による食事への影響は職業背景により異なる可能性が考えられた。これらの研究の内容の一部はすでに国際誌に発表済みである(Sleep Health 2020, in press. doi.org/10.1016/j.sleh.2019.11.006)。

本論文は、非感染性疾患と生活習慣の関連性について貴重な情報を提供するものであり、学位論文として十分な内容と水準を備えていると判断した。第一回審査では申請者の出席のもと、論文の内容についての説明がなされ、内容に関しての口頭試問がなされた。申請者は質疑に対して適切に回答した。また審査において指摘された事項をもとに後日加筆修正を行なった訂正論文が提出された。第二回審査では訂正された論文内容の審議がなされ、適切に訂正されていることが確認されたため、最終審査と公开发表を行うことを可とした。以上の審査の過程をふまえて行なわれた公开发表(1月22日)においても、審査員からの質疑に対して的確な対応がなされ、訂正された論文内容も合格と判断した。以上の審査過程により、審査委員会は本論文を本学人間文化創成科学研究科の、博士(生活科学)、Ph.D. in Nutritional Epidemiology の学位を授与するに相当する論文とである判断した。